

2 持続可能な社会を実現するための地域づくり・人づくり（柱2）

－多様な主体による環境啓発活動や環境教育－



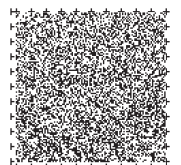
目指す姿

- 県民誰もが環境負荷の少ない行動を実践することで、持続可能な社会を実現している暮らしやすい地域。
- 個々に行われていた環境教育・環境学習等が広がり、地域に根差した環境保全の取組のネットワークが拡大した社会。
- ニーズに応じた環境関連情報が行き渡り、各主体が積極的に地域課題解決に向け連携している社会。
- 経済・社会活動が「環境」をキーワードにして動き、豊かな環境を持続的に利用できている社会。

柱2
人地
づくり

現状・課題

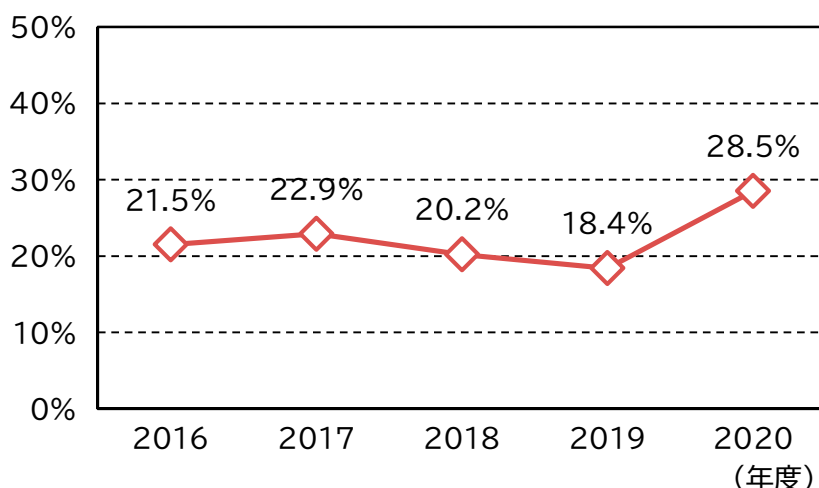
- 地域づくり・人づくりは、脱炭素社会への移行、循環型社会の推進、自然共生社会の推進等環境に関する様々な課題を解決し、持続可能な社会を実現していくための分野横断的な施策です。
- 持続可能な社会を実現するためには、環境教育を通じて、地域の課題について考え、解決に向けて行動する力を育むような人づくりとそれらの行動を地域に根差したものにしていく地域づくりが必要です。
- 教育基本法では、教育の目標の一つとして、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」を規定しており、環境教育の推進は大変重要です。
- 環境保全活動や環境教育については、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」において、環境の保全と経済及び社会の発展を統合的に推進することの重要性を踏まえ、多様な主体がそれぞれ適切な役割を果たすとともに、相互に協力して行われることが示されています。
- 「持続可能な開発のための教育」（ESD）は、環境、貧困、人権、平和といった現代社会の課題を地球規模課題の解決と結び付けて考え、行動変容をもたらすための教育であり、学校教育だけでなく、あらゆる場面での教育活動から学んだことを実践することが重要です。2021（令和3）年5月に決定された「我が国における『持続可能な開発のための教育（ESD）』に関する実施計画」（第2期ESD国内実施計画）で



は、ESDを通じた地域づくりの推進とともに、ESD実践のための支援¹について示されています。

- 2012（平成24）年に施行された「消費者教育の推進に関する法律」において、消費者教育に関する施策を講ずるに当たっては、環境教育に関する施策との密接な連携を図る配慮が求められています。
- 国及び本県では、「環境の日」（6月5日）がある6月を「環境月間」としています。環境月間に合わせて啓発活動を実施し、環境保全の意識啓発を図っています。

福岡県民の環境月間の認知度



【出典】「県政モニターアンケート調査結果」に基づき福岡県作成

- 効果的な地域づくり・人づくりを進めるためには、県民、NPO、事業者、行政等がそれぞれの情報やネットワークを持ち寄り、連携をより一層強化し、社会全体として推進していくことが望まれます。

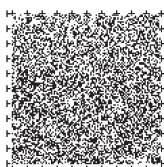
環境講座・環境イベント等の開催数(本県及び県内市町村主催)

年度	2018	2019	2020
環境講座・環境イベント等の開催数(件)	2,287	2,070	1,043

※ 2019及び2020年度の開催数が、前年に比べて減少している主な要因はコロナ禍による開催中止等による。

【出典】市町村及び保健福祉環境事務所等への照会に基づき福岡県作成

- 国の環境基本計画で示された「地域循環共生圏」は、地域ごとに様々な資源を循環させるとともに、必要に応じて他の地域とつながり、支え合うことで、持続可能な地域づくりを目指す考え方です。本県においても、地域循環共生圏構築に向けた取組が進んでいます。



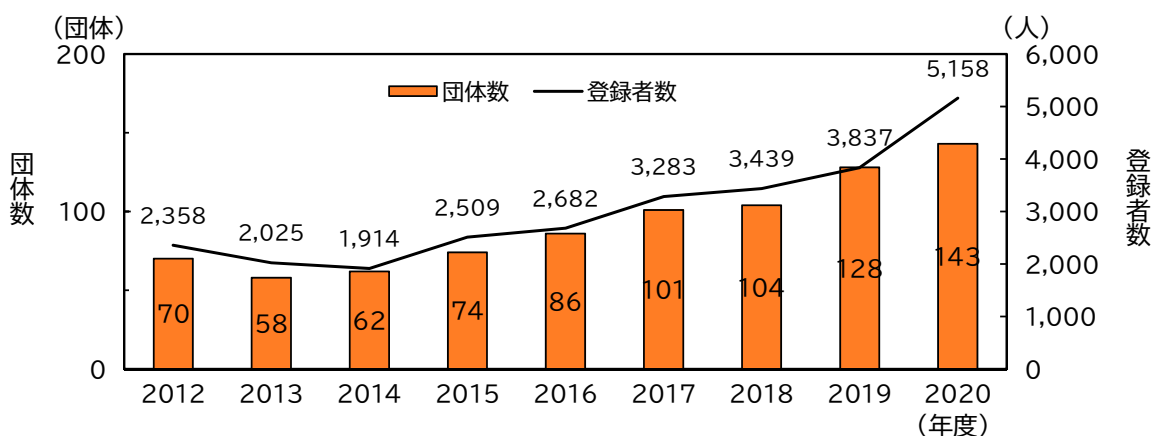
¹ ESDに取り組む様々な主体が参画・連携あるいは支援を受ける仕組みとして、ESD活動支援センター及び地域ESD推進拠点が設けられており、本県内では、7団体が地域ESD推進拠点に登録されている(2021年11月時点)。

福岡県内における地域循環共生圏構築に向けた取組の例

みやまスマートエネルギー	エネルギーの地産地消による地域経済の活性化、地域雇用の創出等を目的として、民間企業との合同出資により「みやまスマートエネルギー(株)」を設立し、自治体主導の地域新電力では日本で初めて家庭向けの電力小売りサービスを提供しています。
福岡県南筑後地域におけるプラスチックのリサイクル	南筑後地域（筑后市、八女市、柳川市、大川市、みやま市、大木町、広川町）では、焼却ごみを大幅に削減するため、焼却ごみの容積の半分を占め、焼却時の温室効果ガス排出量が大きいプラスチックの分別・リサイクルに取り組んでいます。 容器包装プラスチックは、選別・バール化して容器包装リサイクル協会に引き渡すほか、それ以外のプラスチックは再生油に戻して地域のボイラー燃料として利用しています。
宗像国際環境会議実行委員会の「海の鎮守の森」の再生	2017（平成 29）年 7 月に「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」がユネスコ世界文化遺産に登録されたことを契機に、豊かな海の象徴である「海の鎮守の森」の再生のため、企業等と連携し、継続的な環境改善プログラムの実施や事業の継続的活動を進めていくための資金獲得の仕組みづくりに取り組んでいます。

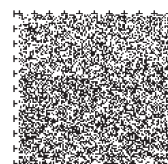
- 県民、事業者及び行政が一体となって本県の望ましい環境を創出し、地域における環境の取組を通じて地球環境の保全に貢献するため、福岡県環境県民会議を設置しています。
- 2013（平成 25）年度から、本県の各保健福祉環境事務所が、管内の市町村や地域の地球温暖化防止活動推進員、NPO 等と連携して地域環境協議会を設置し、地域の特性に合わせた環境保全事業を行っています。
- 2020（令和 2）年度は、県内で 143 クラブ、5,158 名の子どもたちが、こどもエコクラブに登録し、自主的な環境保全活動を行っています。登録者数は近年増加傾向にあります。

福岡県内こどもエコクラブ団体数及び登録者数の推移



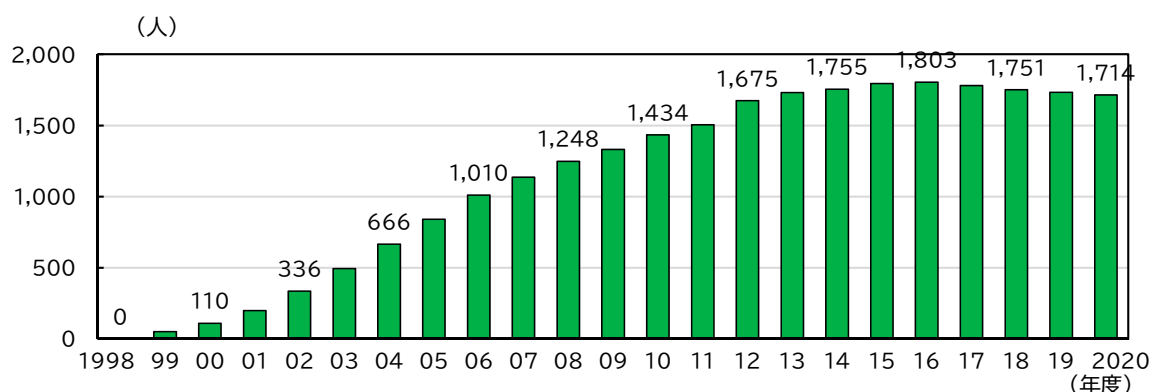
【出典】こどもエコクラブ全国事務局 HP に基づき福岡県作成

- 本県では、事業者、県民、NPO 等が主体的に地域の課題解決に参加する機運を高めていくため、NPO 等の活動基盤強化、NPO 等と事業者・行政との協働の推進に取り組んでいます。



- 本県における NPO 法人数は、2021（令和 3）年 3 月末現在で、1,714 法人であり、多様な社会貢献活動を行っています。

福岡県内 NPO 法人数の推移



【出典】福岡県

施策の方向

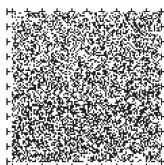
【地域資源を活かした魅力ある地域づくりの推進】

県民、NPO、事業者等の各主体が行う自主的な取組への支援

- 県及び市町村は、地域における取組が継続したものとなるよう、地域で活動する様々な団体との連携に努め、新たな担い手の育成、地域の魅力向上等に向けた地域の活力を強化します。
- 農山村民泊や農業を体験するグリーンツーリズム等に取り組み、地域住民や NPO、地域づくり団体、大学、事業者等が連携した魅力ある地域づくり・人づくりを推進します。
- 県が管理する海岸及び河川について、清掃、除草等の愛護活動を行うボランティア団体や企業等への支援を行います。【柱 4、柱 6 にも掲載】 → 109 ページ 柱 6 重点プロジェクト

各主体の情報提供や連携等のネットワーク構築

- 持続可能で、暮らしやすい地域を形成するため、家庭や学校・地域、職場等あらゆる場所で、あらゆる主体がいつでも環境教育・環境学習、環境保全活動に取り組めるよう、情報・ツール・人材・機会等の提供に努めます。
- NPO や事業者、行政等様々な立場の主体が情報交換を行い、相互の理解を深めるとともに、マッチングの場を設けることで、協働を促進します。
- 災害に伴い発生する災害廃棄物について、迅速かつ適切な処理を可能にするため、関係者間の連携強化や人材育成に努めます。【柱 4 にも掲載】



- 希少野生生物や外来種等の情報、環境保護団体の活動状況等、生物多様性に関する情報を一元的に発信・提供するプラットフォーム（ホームページ）を活用し、生物多様性への関心や理解を深める取組を進めていきます。【柱5にも掲載】

持続可能な地域づくりの推進

- 脱炭素、循環、自然共生の統合的アプローチに基づき、地域の循環資源を中心に、再生可能資源、ストック資源の活用、森・里・川・海が生み出す自然的なつながり、資源循環や人口交流等による経済的なつながりを深めていく地域循環共生圏の考え方を踏まえ、それぞれの地域の特性を活かした持続可能な地域づくりを推進します。
- エネルギーに関する製品、技術等を紹介する展示会の開催やエネルギーの地産地消に取り組む市町村、事業者への支援等を通じ、エネルギー関連産業の育成・支援及び再生可能エネルギーの導入を促進します。【柱1、柱3にも掲載】
- 森林の有する水源のかん養や二酸化炭素の吸収といった公益的機能の持続的発揮を図るため、間伐等の森林整備を推進するとともに、県民参加による森林づくり活動への支援や林業の担い手の育成を図ります。【柱3にも掲載】

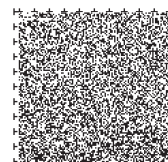
環境に関する観光ブランドの推進

- 豊かな自然に恵まれ、環境問題に長年の経験と技術を持つ、北九州市や大牟田市と連携して、環境に焦点を当てた観光ブランドの推進に取り組みます。

【環境を考えて行動する人づくりの推進】

「持続可能な開発のための教育（ESD）」の推進

- 「一人一人が世界の人々や将来世代、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育」であるESDの視点を取り入れ、環境と社会や経済との関わりを盛り込んだ環境教育を推進していきます。
- 地域における高齢化・過疎化等の様々な課題を意識しながら、ごみ問題や身近な自然の保全等について、NPO等や事業者、行政等の既存の活動を活かし、各主体の課題解決と持続可能な社会づくりのための取組を推進します。
- 環境に配慮した生活・事業活動を浸透させるため、学校や地域、職場等における環境教育・環境学習を推進し、ライフスタイル・事業活動の転換を促進します。
- 小中学校等の学校現場や社会教育現場において、自主的に学習が可能なワークブックや環境教育副読本を活用する等、身近な環境との関わりや、環境に関する現代社会の諸課題について



学習する機会を充実します。また、地球温暖化等の環境問題の環境教育に成果を上げている学校を表彰する等、各校における環境教育の推進を図ります。【柱3にも一部掲載】

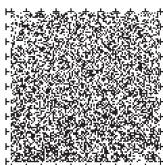
- 県内の社会教育施設において、関係団体と連携し、環境保全や環境再生、環境ボランティア養成等様々な研修の機会を提供することにより、社会教育の場における環境教育の充実に努めます。

人づくりを支える拠点・場の整備

- 福岡県環境県民会議の活用等により、県民、事業者及び行政が一体となって地域における環境の取組を広げ、豊かな環境の保全・創出に貢献していきます。
- こどもエコクラブ事業等を通じて、子どもたちが地域の中で自主的に取り組む環境学習・保全活動や自然体験活動を広げていきます。
- 九州自然歩道の整備等、県民が自然と触れ合える環境づくりを行い、自然観察会等による活用を促す等して、県民の生物多様性への関心と理解を深める機会の創出に努めます。

人づくりを支える人材・機会等の提供

- 「ふくおか環境マイスター」「地球温暖化防止活動推進員」「3Rの達人」の派遣等、環境教育に係る人材を派遣する制度を活用し、地域や学校における環境教育の推進を図ります。【柱3にも一部掲載】
- 省エネルギー型のライフスタイルやビジネススタイルへの転換を促すため、省エネに取り組む家庭や事業所を支援する「エコファミリー応援事業」、「エコ事業所応援事業」等の施策に取り組みます。
- 木育に関心のある団体等の取組を支援し、木育を推進します。
- フードバンク活動¹の普及促進、福岡県食品ロス削減県民運動協力店（愛称：食べもの余らせん隊）の登録促進や「ふくおかプラごみ削減キャンペーン」等、ごみの減量化に向けた普及啓発活動を進めていきます。【柱4にも掲載】
- 生活排水や水生生物に係る啓発資材の作成・配布や児童生徒への環境教育等、水辺環境保全への意識を高めるための取組を推進します。【柱6にも掲載】



¹ フードバンク活動：食品企業の製造工程で発生する規格外品等を引き取り、福祉施設等へ無料で提供する活動。

WEB を活用した環境啓発活動 ～久留米市の取組～

多様化する市民・事業者のニーズに応え、様々な主体の環境配慮活動を促進していくためには、新たな環境啓発の取組が必要です。久留米市では、2021（令和3）年6月の環境月間に合わせ、同市ホームページの環境ポータルサイト ecoco「エココ」やYouTubeを活用したオンライン上での「WEB環境フェア」を開催しました。

フェア期間中には、海洋プラスチックごみ問題を自分のこととして考えるための動画「分別救助隊ワケルンジャー」や、生き物のつながりや自然の恵みである「食」についての著名な講師陣によるオンライン講演会を配信したほか、感染対策を徹底しての対面式ワークショップも実施しました。

環境ポータルサイトでは、環境問題について学び、行動につなげていけるよう、環境月間以降も定期的な動画の配信や新しい情報の提供などを行っています。今後もWEBを活用しながら、市民・事業者の環境配慮活動の充実に向けて取り組んでいきます。



「WEB環境フェア」ホームページ画面

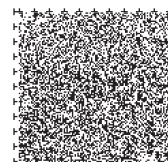


分別救助隊ワケルンジャー
※市民の分別・リサイクルをお手伝い
するための久留米市オリジナルの
キャラクター



↑詳しくは
久留米市 HPへ

柱2
人地
づくり
域



重点的に推進するプロジェクト

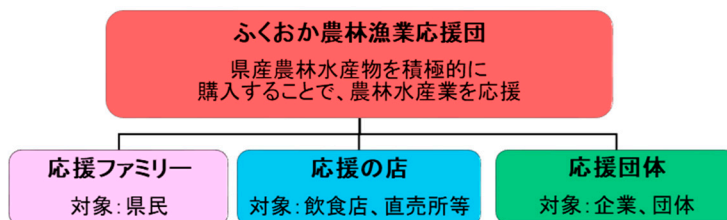
資源を活かした魅力ある地域づくり

～環境に関する様々な体験活動～

本県では、里地里山の豊かな自然や農山漁村地域に対する理解を深めるため、様々な体験型プログラムを展開し、地域資源を活かした魅力ある地域づくりを進めています。

ふくおか農林漁業応援団づくり

本県では、農林水産業への県民の理解促進を図るため、「いただきます！福岡のおいしい幸せ」を県民スローガンに掲げ、県産農林水産物を積極的に購入して農林水産業を応援する「地産地消応援ファミリー」への登録を推進しています。また、飲食店では「地産地消応援の店」、企業や団体では「応援団体」への登録を働きかけることで、農林漁業の応援団づくりを進めています。



さつまいもの収穫体験の様子

これらの取組により、「応援ファミリー」は、2021（令和3）年3月末現在で47,035世帯、「応援の店」は1,659店、「応援団体」は575団体に拡大しました。

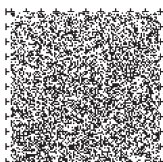
「応援ファミリー」を対象とした農林漁業体験ツアーを実施するほか、2021（令和3）年度はオンラインによる体験活動を行うことにより、コロナ禍での交流を継続して実施し、県民と生産者の交流を通じて農林水産業への理解促進を図っています。



「ふくおか農林漁業の応援団」ホームページはこちら↑
URL: <https://f-ouen.com/ouen/family/>



「いただきます！福岡のおいしい幸せ」ホームページ



社会教育施設における取組

社会教育施設では、環境問題に対する意識の向上と実践力を育むことや、環境ボランティア活動を推進できる人材の育成を図る様々な活動を実施しています。

福岡県立英彦山青年の家では、九州北部豪雨災害の現状や復興の厳しさ、ボランティアの大切さについて講話を聴いた後、被災農園に流れ込んだ土砂を運び出し再起できるように整備する災害ボランティア活動を行い、主体的に取り組む態度の育成につなげています。

また、県立少年自然の家「玄海の家」では、ボランティアマインドの育成とともに、環境問題に対する意識の向上と実践力を育むことをねらいとした事業「タイミング」を実施しています。

海浜清掃ボランティア活動や海岸漂着物アートを作成し、海の環境問題についての情報発信などを通して、海岸周辺を取り巻く環境問題について参加者の理解を深めています。



《災害ボランティア体験をする受講生》



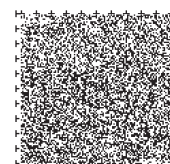
英彦山青年の家
QRコード



《漂着物アートを作成する参加者》



少年自然の家「玄海の家」
QRコード



重点的に推進するプロジェクト

環境を考えて行動する人づくり ～持続可能な社会を実現するために～

本県では、省エネルギー型のライフスタイル・ビジネススタイルが浸透し、人と自然が調和・共生したグリーン社会の実現のため、様々な分野で環境教育や人材育成に資する取組を行っています。

風車メンテナンス技術者の育成支援

風力発電は風車の故障や不具合による稼働率の低下を防ぐため、適切なメンテナンスが不可欠です。しかし、今後は国内における風力発電の導入拡大に伴う風車メンテナンス技術者の不足が懸念されており、風車メンテナンス技術者の確保・育成が急務となっています。

本県では、高等専門学校の子生に対するインターンシップを実施することにより、風車メンテナンス技術者の育成に取り組めます。



高等専門学校の学生に対するインターンシップの様子

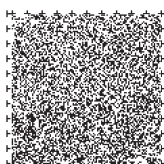
※参考 17 ページ 環境負荷低減に寄与する産業の育成と環境関連産業の集積

ふくおか環境マイスター

福岡県地球温暖化防止活動推進センターでは、地球温暖化についての専門的知識や知見及び資格を有する専門家「ふくおか環境マイスター」を登録し、企業・NPO・自治体の環境担当者、学校の教員などを対象とした講演等に無料で派遣しています。



派遣を通じ、地域社会や学校における地球環境問題、エネルギー問題、生物多様性等に関する学習・研修活動を実践的に支援しています。2020（令和2）年度においては、3件の派遣・講演を行い、延べ158名の方にご参加いただきました。 ※参考 38 ページ 人づくりを支える人材・機会等の提供



地球温暖化防止活動推進員

本県では、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、地域に密着した地球温暖化対策の普及啓発を行うため、2005（平成17）年度より、各市町村長からの推薦を受けて福岡県地球温暖化防止活動推進員を委嘱しています。



推進員は、お祭りなどの地域のイベントで、クイズや実験を交えながら省エネ・節電を呼びかけたり、幼稚園や小学校へ講師として出向き、環境に関する講座を行ったりしています。

今後も、地球温暖化対策の普及・啓発のため、推進員の活動の展開を図ります。

※参考 38 ページ 人づくりを支える人材・機会等の提供、51 ページ 家庭における取組

3Rの達人

循環型社会を実現するためには、個人や団体がそれぞれの立場で自主的にごみの3R（リデュース・リユース・リサイクル）を実践していくことが必要です。

本県では、3Rに関する県民の意識の高揚、3R活動の活性化を図るため、知識と経験を有する個人やNPO法人を「3Rの達人」として登録し、地域や職場、学校等で開催される学習会等に講師として派遣しています。

※参考 38 ページ 人づくりを支える人材・機会等の提供



小学校での3R教室の様子



3Rの達人 HP

生物多様性プラットフォーム

生物多様性の保全等の取組を社会全体で推進するためには、まず生物多様性の現状や重要性について広く県民の関心と呼び理解を深めることが重要です。

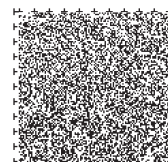
県レッドデータブック掲載の希少野生生物や侵略的外来種の情報、環境保全団体の活動状況を紹介するなど、生物多様性に関する情報を一元的に発信・提供するプラットフォーム（ホームページ）を構築し、生物多様性保全のための情報を効果的に発信・啓発しています。

今後、随時情報の更新を行い、多くの方々に利用してもらい、生物多様性への関心や理解を深める取組を進めていきます。

※参考 86 ページ

生物多様性プラットフォームを活用した啓発

ホームページへの
リンク→



保健・環境フェア

保健環境研究所では、毎年6月の環境月間のイベントの一つとして、「保健・環境フェア」を開催しています。保健・環境フェアは保健衛生や環境保全に関する実験・工作、クイズ大会などを通して、健康や環境の大切さを理解することができる体験型イベントです。



例年、近隣の小中学生やその家族を中心に、多くの参加者が研究所を訪れ、様々な体験活動を行います（2019年度は約500名が参加）。現代はインターネット等を使って様々な情報にアクセスできる反面、実体験の場が少なくなっており、このようなイベントは貴重な体験の場となっています。



保健・環境フェアの動画はコチラ！（ふくおかインターネットTV）

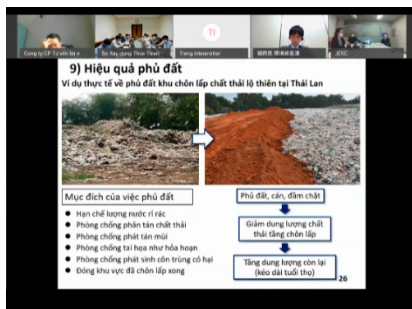
※参考 102 ページ 大気汚染防止対策、水質保全対策

国際分野での人材育成の取組

2006（平成18）年度から、「福岡県国際環境人材育成研修」として、協定締結地域を中心にアジア諸地域の環境施策の中核を担う行政官を招き、研修を行っています。2020（令和2）年度までに231人の研修員が参加しており、大気汚染や廃棄物処理など、現地で必要とされる分野について、制度の紹介や視察等を行っています。

また、訪日研修以外の取組として、ベトナム・フエ省における福岡方式廃棄物最終処分場の整備に伴う施工や維持管理に関するオンライン研修や、専門家を派遣してのバンコク都内の小学校教員に対する環境教育研修会の開催等、アジア諸地域からの要請に基づき、人づくりに関する様々な支援を行っています。

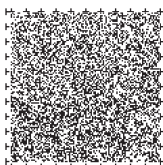
※参考 112 ページ アジア諸地域との環境協力の推進



（左）福岡県国際環境人材育成研修（訪日研修）

（中）福岡方式廃棄物処分場の施工や維持管理の研修（ベトナム フエ省）

（右）環境教育に係る小学校教員への研修（タイ バンコク都）



指標項目

柱	指標項目	目標	現状	備考
持続可能な社会を実現するための 地域づくり・人づくり	こどもエコクラブ 登録団体数	200 クラブ 2026(令和 8)年度	143 クラブ 2020(令和 2)年度	年間 10 件程度の増
	環境講座・環境イベント 等の開催数	1,560 件 2026(令和 8)年度	1,043 件 2020(令和 2)年度	現状(開催件数)値 から 1.5 倍程度の 件数までの回復(オ ンライン含む)

柱2
人地
づくり
地域

